

令和3年度 生命医科学域セミナーⅡ

**演題：免疫システムの基本原理の
解明から疾患制御へ**

演者：渋谷 和子 先生

医学医療系・免疫学 准教授

日時：令和3年12月13日(月) 16時～17時

会場：健康医科学イノベーション棟8階講堂

要旨：

免疫システムは、自己と非自己を識別し、非自己である病原微生物やがん細胞などを排除する生体防御機構である。一方、免疫システムは、アレルギーや自己免疫疾患などにも密接に関与している。これらの疾患の制御には、免疫システムの基本原理を解明することが必要である。

炎症時には主にTh1型免疫応答が惹起され、引き続いて作動するマクロファージやキラーリンパ球によって細胞内病原微生物やがん細胞の排除が行われる。私たちは、これまでに免疫細胞上に発現するDNAM-1受容体に着目し、Th1型免疫応答の始点となるサイトカイン非依存性Th1分化機構を見出した。また、DNAM-1がTh1型免疫応答やキラーリンパ球の細胞傷害活性を誘導することにより、発がん制御に関わることや、移植片対宿主病、自己免疫疾患や炎症性疾患の病態に関与していることを明らかにしてきた。本講演では、DNAM-1とそのリガンドの機能や病態への関与を概説し、それらの分子を標的にした疾患制御の可能性について議論したい。

連絡先：生命医科学域長室 高橋 智
satoruta@md.tsukuba.ac.jp